

(別紙2)

3. 助成対象事業の成果 (結果)

【事業名】 事業名のほか、A事業①②、B事業の別も記入してください。

A事業①② 香川ブランドの価値を高める！かがわの地域資源販路拡大支援事業

【目的〈課題認識、方向性、目標、事業実施計画等〉】

本県の課題として、中小企業者等の経営基盤は脆弱で、経済情勢等の変化や地域間競争・国際競争の激化により様々な影響を受けやすい。そのため、地域の強みを最大限に生かすことが不可欠ではあるが、未だ不十分であり、中小企業者等からも蓄積された強みとなる資源・技術をさらに磨き、市場動向や消費者ニーズを把握し販路拡大を図る機会を得たいという要望が強いが、支援が十分ではないことが挙げられる。

このことから、中小企業者等が行う地域の資源を活用した商品やサービス等のブランド力強化やさらなる販路拡大の取組みを効果的に支援することで、全国展開さらには海外展開により将来的に伸び行く中小企業者等の経営力向上に寄与するとともに、県内産業の振興と地域経済の活性化を図る。

また、本事業を通じ、県が策定した「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画（令和3年10月策定）に沿った、独自の強みを持つ企業の競争力強化や地域の強みを生かした新たな活力と付加価値を生み出す成長産業の育成に取組み、力強く着実に成長していく経済社会の実現を目指す。

事業実施計画としては、地域資源ブランド化・販路拡大支援事業として、中小企業者等が創意工夫して行う地域の資源を活用した商品の開発、戦略的な情報発信等による販路拡大のための実効性のある新たな取組みを支援するための助成金を交付する。

かがわ魅力発見事業として、オリーブや希少糖、機能性表示食品といった香川の産品をリードする地域の資源に特化し、食品見本市への出展を支援する。また、アート県の強みを生かし、芸術（クリエイター）と香川ならではの漆器や石材、手袋等の地域の資源を扱う企業とをマッチングさせることで、地域の資源の魅力をもっと引き出すような新商品開発を行う「芸術の街かがわ×地域の資源 新商品・ブランド開発プロジェクト」を実施する。

地域資源コーディネート事業として、新たにコーディネーターを配置し、助成金事業等の幅広い利用促進、シーズの発掘からブラッシュアップ等のための助言等の支援を行う。

【成果（結果）〈実施事業の内容・実績、実施した結果生まれた新たな課題等〉】

○地域資源ブランド化・販路拡大支援事業（A事業①）

1. 実施内容・実績

中小企業者等が創意工夫して行う地域の資源を活用した商品の開発、戦略的な情報発信等による販路拡大のための実効性のある新たな取組みを支援するために助成金を交付した。

【令和4年度】

事業期間：令和4年6月1日～令和5年2月10日

応募事業者：16事業者

採択事業者：8事業者

	事業者名	事業名
1	株式会社蒼島	ブランド化推進による地場産業活性化事業
2	アットハンド株式会社	業界初オリーブ乳酸菌獲得とおいで米を使用した醗酵プリン製造

3	株式会社アムロン	魚骨由来アパタイトを原料とした重金属吸着資材の用途開発に関する研究
4	有限会社かがわ木材加工センター	香川県産産材拡販を目的とする J A S 認定材生産体制の構築
5	讃岐化成株式会社	香川県産ヒノキ材の長寿命化処理パイロットプラントの設置
6	松熊工業株式会社	自社生産の桑の実を活用した健康食品の開発・製造・販売
7	三豊オリーブ株式会社	香川県産オリーブ葉を使用した商品開発とブランド強化事業
8	日本農産株式会社 ※令和4年11月廃止	クラフトビールで王越まるっとブランド化

【令和5年度】

事業期間：令和5年5月19日～令和5年12月28日

応募事業者：11事業者

採択事業者：6事業者

	事業者名	事業名
1	アーバン工芸株式会社	自社ブランド「TIDE」のリブランディングに伴う販路拡大事業
2	讃岐かがり手まり保存会	讃岐かがり手まり保存会ブランド化推進
3	有限会社大川瓦店	デジタルものづくり技術を活用したいぶし瓦製品の開発
4	香川県酒造協同組合	さぬきオリーブ酵母清酒を中心とした地域資源との相乗的な販路開拓
5	白川農場株式会社	県内産ニンニクを活用した乾燥ニンニクチップの開発・製造・販売による売上向上
6	有限会社筒井製菓	香川県産の海苔で豆菓子巻くお菓子の製造機械の開発

2. 実施した結果生まれた新たな課題等

令和4年度は、募集開始から助成金の交付決定までの期間を可能な限り短縮することで、助成対象者の事業期間の確保に努めたが、募集期間が短いため、専門家による申請内容のブラッシュアップが十分にできなかった。

そこで、令和5年度は、令和4年度を含む複数年度に亘る事業計画として、既に交付決定を受けていたため、募集を令和5年2月から前倒して開始したことで、上記の課題が改善できた。

なお、令和4年度、5年度とも、事業期間が約7か月と短かったため、期間内に事業化ができなかった事業者もあったが、各事業者とも令和6年度中に当該商品の販売ができるよう準備を進めている。

○かがわ魅力発見事業（A事業②）

1. 実施内容・実績

① 地域資源活用型食品見本市出展事業

令和4年度に、香川の産品をリードする地域の資源であるオリーブや希少糖に特化し、「第57回スーパーマーケット・トレードショー2023」への出展支援（参加企業2者）を行った。令和3年度開催時と比べると来場者が約2万人増加しており、コロナ前の賑わいが戻りつつあった。

開催日時：令和5年2月15日～17日

開催場所：幕張メッセ全館（千葉市美浜区）



1. 実施内容・実績、進捗状況

② 芸術の街かがわ×地域の資源 新商品・ブランド開発プロジェクト

「瀬戸内国際芸術祭」などをはじめ芸術の街としても注目されているアート県の強みを生かし、芸術（クリエイター）と香川ならではの漆器や石材、手袋等の地域の資源を扱う企業とをマッチングさせることで、地域の資源の魅力をさらに引き出すような新商品開発を令和4年度から令和5年度の2年にわたり実施した。1年目は、クリエイターと事業者とのマッチングを行い、開発ミーティングを都度で実施、専門家（地域資源コーディネーター、バイヤー）からのアドバイスを受けながら、総括的に新商品開発に取り組んだ。2年目は、クリエイターから提供されたアイデアを元にさらにミーティングを重ね、各社とも新商品を開発した。

事業期間：令和4年4月～令和5年12月28日

参加事業者：8事業者

クリエイター：5者

【令和4年度】

1年目は、審査委員会によるクリエイターの選考及び「魅力ある商品の作り方セミナー」を開催した。採択されたクリエイター5者は、県内事業者8者とマッチングを行い、支援する事業者を決定した。

	クリエイター名	事業者名	開発内容等
1	吉岡 奈緒美 氏	田渕石材株式会社	地域の資源：石材 高松市庵治町で採掘される良質な花崗岩「庵治石」を使ったファブリック製品の開発

2	WARPDESIGN 代表 松原 篤 氏	株式会社パック三樹	地域の資源：段ボール 新たなインテリア製品の 開発
3	FooDoo's 代表 松田 まり子 氏	株式会社太洋木材市場	地域の資源：ヒノキ 贈り物や置物など、木の 風合いを生かした製品の 開発
4	FURIKAKE 代表 得丸 成人 氏	四国繊維販売株式会社	地域の資源：布団 新素材を生かした縫製品の 開発
		株式会社ダイコープロダクト	地域の資源：手袋 カメラバッグ製品の開発
		株式会社川口屋漆器店	地域の資源：香川漆器 お椀の再定義を行い、コ ンセプトを他社製品と比 較。差別化が図れないか を模索
		平田商店	地域の資源：手袋 地域でとれるレザーを使 用した製品の開発
5	株式会社H. Y. D. 林 雄三 氏	ウインセス株式会社	地域の資源：手袋 繊細な縫製技術を生かし た新製品の開発

○「魅力ある商品の作り方セミナー」

開催日時：令和4年9月1日（木）

開催場所：香川産業頭脳化センタービル2階 一般研修室（高松市林町）

内 容：魅力ある商品の作り方の講演、事業者が新商品開発等と共に
行うクリエイターを選ぶ場を兼ねて開催。

※新型コロナウイルス感染防止のため、ハイブリッド形式で実施。



【令和5年度】

2年目は、クリエイターから提供されたアイデアを元にさらにミーティングを重ねながら、
新商品を開発した。

・成果

参加事業者：8事業者

新規アイデア：16件

開発商品：8アイテム

・ 開発商品について

クリエイター 吉岡 奈緒美 × 田渕石材株式会社

地域の資源：石材（庵治石）

開発商品：ロウソク&線香ケース

庵治石柄の生地を使った線香と蠟燭を少量持参できる携帯ケースを開発。蓋は片手開閉が可能なマグネット式で、淡路島産の線香とカラフルな豆蠟燭がセットになっている。線香はルームインセンスとして付属のお香立て（庵治石）でも楽しめる。使い切ったら、お気に入りの線香や蠟燭に詰替えて使用することができる。



クリエイター WARPDESIGN × 株式会社パック三樹

地域の資源：ダンボール

開発商品：ダンボールの新たな可能性を提案する「SOZO」

ダンボールのインテリア製品を展開。ポップで目を引く造形でインテリアのアクセントに。若い世代が買いやすい比較的安価な値段とし、自分なりの組み合わせでアレンジの楽しさが味わえる商品となっている。



クリエイター FooDoo's × 株式会社太洋木材市場

地域の資源：ヒノキ

開発商品：ヒノキと樹脂の消臭ブロック

消臭効果とリラックス効果のある香川県産ヒノキと人や自然に優しい樹脂を組み合わせたブロックを開発。日常生活の中でニオイが気になる玄関、靴箱、靴の中、衣類棚などに設置して使用する。



クリエイター FURIKAKE × 四国繊維販売株式会社

地域の資源：布団

開発商品：COTA MUFFLER

四国繊維販売が創業したきっかけであるこたつ布団に着目し、「首に巻くふとん」をイメージした「COTA MUFFLER（コタマフラー）」。「ふとん屋さんが作るということで「温かい」「ふわふわ」といったイメージを消費者が連想してくれることを期待して商品を開発した。



クリエイター FURIKAKE × 株式会社ダイコープロダクト

地域の資源：縫製品

開発商品：FOLCUS SLING

FOLKS（民衆）× FOCUS（焦点）を合わせた造語「FOLCUS」という名前を冠するバッグということで、みんなが持って出かけたと思う、カメラが入るバッグを開発。必要最小限のカメラ機材を効率よく持ち運ぶ為、無駄を削ぎ落としたデザインにした。



クリエイター FURIKAKE × 株式会社川口屋漆器店

地域の資源：香川漆器

開発商品：積器 Tsumiki

香川県庁舎東館の建築に取り入れられたジャパニーズモダニズムの意匠からインスパイアされた漆の器を開発。単体でも重ねても使えるお重で、蓋は皿になる3WAY仕様となっている。



クリエイター FURIKAKE × 平田商店

地域の資源：手袋

開発商品：Fish×Jibier leather Glove

香川県は国内産手袋の約9割を製造しており、海も山も近く、皮革の材料となる魚や獣も多く生息している。活用されなかった廃棄皮を材料にした手袋を開発することで、独自性のある製品が生まれるだけでなく、ゴミの軽減にも繋がる。「大切な命を完全に活かす」という思いが込められた手袋。



クリエイター 株式会社H.Y.D. × ウインセス株式会社

地域の資源：手袋

開発商品：gyutt - ギュット -

精密機械工場などで使われる手袋を得意とするウインセスは、その縫製技術を活かして触り心地を追求した商品を開発。ついつい、握ってしまう手触りと揉み心地。ストレスを発散したいとき、握力を鍛えたいとき、そして手の拘縮（こうしゅく）予防など介護シーンで使える商品となった。



・かがわ魅力発見事業 新商品・ブランド開発プロジェクト成果報告会の開催

日 時：令和5年12月19日（火）10：00～16：00

会 場：コトマス兵庫町（高松市兵庫町3-10）



2. 実施した結果生まれた新たな課題等

参加事業者は、ものづくりについては高い知識やノウハウを要しているが、それをどのようにどこへ売っていくかということが明確になっておらず、商品完成後、販路に苦慮することが考えられたため、販路が狭域になりがちな地場産業関連製品・香川県伝統的工芸品の販路拡大に繋げられるよう事業者の状況に合わせた伴走型の支援を2年を通して実施した。

今後も、引き続き販路拡大、情報発信等の支援を継続することで、市場への訴求力を高め、厚みのある商品群の開発支援を行う。

○地域資源コーディネート事業（A事業②）

1. 実施内容

「地域資源ブランド化・販路拡大支援事業」における助成金の申請から事業遂行、完了までの一連の取組に対し、シーズの発掘から事業のブラッシュアップ等のための助言などの支援を行った。また、「新商品・ブランド開発プロジェクト」では、事業者とクリエイターとの間に入りながら、商品開発やデザイン開発、販路拡大についての専門的な助言を行った。

【令和4年度】

委嘱期間：令和4年4月12日～令和5年3月31日

配置人数：2名

【令和5年度】

委嘱期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日

配置人数：2名

2. 実施した結果生まれた新たな課題等

「新商品・ブランド開発プロジェクト」では、事業者に訪問し、専門的な助言を行った。助成金事業については、令和5年度の募集を令和5年2月から前倒して開始することで、シーズの発掘や申請内容のブラッシュアップを行うことができた。

【評価〈目標の達成度〉、数値の検証等】

中小企業者等が開発、ブランド力の強化に取り組んだ新商品等の幅広い販路拡大を目的として事業を実施したことで、新たな商品が誕生するとともに、一定程度、中小企業者等の業務提携や新規取引先の開拓等の販路拡大が図れ、県内企業の経営基盤の強化及び競争力強化に繋がり、県内産業の振興と地域経済の活性化に貢献できたと考える。

具体的な数値目標として、令和4年度の①助成金交付事業では、商談件数25件、②食品見本市出展では商談件数60件、③コーディネート事業では相談件数10件以上を目標としており、①については商談件数39件、②については商談件数145件、③については相談件数11件であり、すべて目標を達成できた。

また、①は、8事業の内2事業が商品のブランディング、5事業が商品開発でありその内3社が事業化している。事業化ができなかった事業者も、令和6年度中に当該商品の販売ができるよう準備を進めている。

間接的成果目標である事業終了後3年以内の事業化率70%以上については、約82%、総売上高の年率3%以上の増加については、4.9%の増加となりと目標を達成できた。

令和5年度の①助成金交付事業では、商談件数25件、②新商品・ブランド開発プロジェクトでは事業に対する肯定的評価80%、新規アイデア数10件以上、③コーディネート事業では相談件数10件以上を目標としており、①については商談件数23件、②については肯定的評価約92%、新規アイデア数は、16件（内8件が商品化）、③については相談件数5件となった。

また、助成金交付事業では、6事業の内2事業が商品のブランディング、4事業が商品開発でありその内1社が事業化している。事業化ができなかった事業者も令和6年度中に当該商品の販売ができるよう準備を進めており、一定の成果があったと評価できる。

間接的成果目標である事業終了後3年以内の事業化率70%以上については、60%であった。また、総売上高の年率3%以上の増加については、9.3%減となったが、今年度分は期中での総売上高を元に算出しているため、今後、期末時点での総売上高を基に算出する。

【今後の進め方（波及効果を含めて）をどうするのか】

A事業①で実施した助成金交付事業の令和2年度から令和5年度までの応募倍率の平均は約2.55倍、支援事業者20者（新商品開発）の内12者が新商品を開発し事業化率は60%となった。本事業では、香川県の地域の資源を活用した商品の開発、戦略的な情報発信等による販路拡大のための実効性のある新たな取組みを支援しており、採択事業者の多くは、香川県産の農林水産物（オリーブ、酒、小麦等）を原料とした商品開発や地場産業製品・工芸品のブランド化を行っていることから、新商品の売上により地域経済への波及効果が期待できる。

また、A事業②で実施した新商品開発に向けての伴走型支援についても、参加企業から商談機会の創出や異業種間の繋がりができたことに対する評価も高く同様の事業の継続的な実施を望む声が多かったため、事業規模は変わっても継続実施を模索したい。

注1) 上記項目について詳細に記載してください。

注2) 成果（結果）の内容について、別途、お伺いすることがあります。

注3) 成果物（報告書・アンケート集計物・DVD等）、記録用写真等があれば提出してください。